

劇団 SEKI AOI
THEATRE COLLECTIVE
せきあおい

/am /bell /oup.

2024年1月27日(土) - 28日(日)

14:00 - / 17:00 - (全4公演)

開場は開演の30分前です

場所：前橋市芸術文化れんが蔵 (群馬県前橋市三河町1丁目16-27)

チケット：前売・当日 ¥2,500 (公演脚本付き)

脚本・演出：せきあおい (劇団せきあおい)

出演：生方保光 (劇団ザ・マルク・シアター) / 七五三木貴宏 / 渡辺千咲子

演奏：高崎経済大学モダンジャズ研究会

舞台監督：加藤秀郎 音響：羽鳥優斗 小道具：照

外野：しろきた 制作：鳴海琢元

予約：shibai-engine.net/prism/webform.php?d=3jnwf3n8



/am/bell/oup.

/am/bell/oup. について

劇団せきあおいによる 3 作品目となる本企画のテーマは『ポスト・トゥルース』である。

本企画は、役者が公演脚本を読み、モダンジャズ研究会がその場で演奏する。即興のぶつかり合いで、演技、演出、演奏が千変万化していく様を体感的に味わう舞台となっている。

演者や演出によって出力される公演内容と、観客の解釈は相互に干渉しあう。相互に同じ脚本を受け取ったはずなのに、役者によって、演奏者によって、そして受け取る人によってその意味は二重にも三重にも歪められていく。

公演脚本という「真実」を目にしなが、真実が目の前で再構築され、そして受け手である観客自身が再構築していく過程は、まさに『ポスト・トゥルース』が生み出される過程の再現である。その体験に、観客は真実への不信を抱くことだろう。

だが、不信感を上塗りして、上演される舞台は観客をどこか安心させる。

役者。即興演奏。即興演出。それらによって誇張され、色付けられる白紙の舞台は、私たちに確かに見たことのある風景を想起させる。父母。隣人、そして友人の姿。変わりゆく街の風景。見覚えのある地方都市のリアルでパッチワークされた脚本が、神話として私たちに働きかける。

劇団せきあおい

劇団せきあおいは、公演ごとに役者や裏方が入れ替わる、孤独な演劇集団である。

地方都市に根ざし、地方から停滞する社会に斬り込むことを目的とする。

劇団を主宰し、脚本の執筆と舞台演出を手掛けるのは、せきあおい自身。

大学在学中の 2022 年に旗揚げし、以降、「藪の床に横たわりて」「mikumiku2525w を待ちながら」と、二つの公演、展示を行なっている。社会学やサブカルチャーに主眼を置いた上演内容は、ともすれば我々が考えることを忌避し、触れることを不快に思いかねないような事象を喚起する。

Email : gekidannsekiaoi50@gmail.com

X (Twitter) : x.com/GDsekiaoi

Instagram : instagram.com/gdsekiaoi